

# 12 がっひかりごう

令和3年12月1日 輝保育園

寒さも少しずつ厳しくなり、本格的な冬の訪れを感じられる頃となりました。前月は、3才以上児の遠足があり、全員、怪我もなく遠足を満喫しました。お家の方に作って頂いた手作りのお弁当は、何よりも一番の楽しみで、早い時間から、「何だかお腹すいたな〜」と、昼食を待ちわびている子ども達でした。早朝から、本当にありがとうございました。今月は、クリスマス会等の楽しみがあります。大掃除などを通し、年末を感じながら、過ごしていきます。



## 【除夜の鐘】

除夜の鐘は、人間の煩惱を祓い、清らかな気持ちで新年を迎えられるようにつくといわれています。

鐘をつく時間帯は、お寺や地域によって異なりますが、多くのお寺では22時30分〜23時頃からつき始めるようです。

鐘のつき方は「年内に108回打ち終えて清浄の身となって新年を迎える」、「年内に107回打ち終えて、新年を迎えてから最後の1回を打つ」、「大晦日から新年にかけて年をまたいで108を打つ」など様々です。



## 12月の行事予定

- 3日(金) 避難訓練
- 24日(金) クリスマス会  
身体測定・誕生会
- 28日(火) 保育納め
- 29日(水) 年末年始休み
- 1月3日(月)
- 4日(火) 保育初め

## ナース・レポート

【手足口病、季節外れの流行 新型コロナも影響か、大きな流行を起こす可能性も】

夏に乳幼児で流行することが多い手足口病とヘルパンギーナの感染者の報告が、西日本を中心に季節外れの高水準となっている。

国立感染症研究所によると、8月中旬ごろから報告者がじわじわ増え、10月下旬では過去5年間の同期と比べると今年が多い。

KYODO 通信 11/13 配信分より抜粋

手足口病の原因になるウイルスはさまざまあり、そのウイルスごとに特徴があります。

手足口病は5才未満の発症が多く、手のひらや足の裏、口に2〜3mmくらいの水疱ができるとう症状が典型的です。

これは「コクサッキーウイルスA16型」が原因となります。

「エンテロウイルス71型」は髄膜炎や脳炎を起こしやすく、「コクサッキーウイルスA6型」は、お尻やお腹、背中などにも、大きな水疱を作る場合があります。

しかもコクサッキーウイルスA6型による手足口病は、派手な発疹が治まった頃に、爪が取れてしまうという「爪甲脱落症」を起こすこともあります。

手足口病は、直接有効な抗ウイルス薬はなく、対処療法が基本です。

またウイルスは飛沫・鼻汁から1〜2週間、便中から数週間排出されるので注意が必要です。

## 《《《 お願い 》》》

1. クリアケースの中と、お便り帳を毎日確認してください。
2. お金などの貴重品は、必ず職員に手渡しをお願いします。
3. 持ち物や衣類には名前の記入をお願いします。名前が薄くなっていないか、もう一度確認して下さい。
4. 夜更かしをさせず、早寝・早起をし、しっかり朝食を摂りましょう。
5. 毎日入浴させ、清潔にしましょう。

## ☆☆ コミュニケーション ☆☆

### ～ 大人の関わり方 ① ～

コミュニケーションとは、人と人が言葉や身振り、表情、あるいは文字等を使って自分の気持ちや情報等を伝え合うことです。

伝え合うということは、自分の気持ちや情報等を相手に伝えようとすることや、それらを理解しようとする必要があります。

つまり、一方的な伝達だけでは、コミュニケーションが成立したとは言いきれません。

現在では、情報通信機器の発達や核家族化、地域の役割の変化等に伴い、コミュニケーション能力の低下が懸念されており、新学習指導要領においては、日常生活に生きて働くよう言語活動を充実させ、伝え合う力を高めることを求めています。

では、コミュニケーション能力の向上でどんな効果があるのでしょうか。

○ 互いの思いや考えを理解し合う ⇒ 仲間と一緒に課題に取り組み、解決・達成する ⇒ 仲間からの賞賛を受けるこれらの過程をとおして自信が生まれ、「自尊感情」(自分自身を価値あるものとして評価し信頼する感覚)が高まります。

それが学習時間であれば、「学ぶ意欲」も高まります。

○ 相手の気持ちや周囲の状況を汲み取りながら生活するなど、「規範意識」の向上に役立ちます。

「教育力向上福岡県民運動 ホームページ」より抜粋

# こどもよす

たんぽぽぐみ 0才児



絵本の読み聞かせの時間、話の中に出てくる「いない いない ばあ」や「あつぷぷ」などのセリフを共に言ってくれたり、「ワンワン」、「プープー」と物を指さして伝えたりと言葉での表現が増えてきました。喃語や発語、おしゃべりも上手になりとつてもにぎやかです。言葉の獲得には音声聞く、音声を発する、コミュニケーション、物の認知が必要となります。乳児期の早い内から様々な音を聞き分け特に人が話す音を心地よいと感じ、音声器官が発達すると母音を中心とした音声を発するようになります。言葉の獲得は個人差が大きいですが、泣いて何かを伝えようとしていた時期から、一生懸命に自分の意思を言葉を使って伝えようとする姿はとても微笑ましく成長を感じる瞬間です。色々なものが育まれる言葉でのやり取り、語り掛けを今後も楽しんでいきます。

たんぽぽぐみ 1才児



「お外に遊びに行こう」と声を掛けると、自分で帽子を被り、上着も着ようとしています。まだ、上着に手を通したり、チャックを掛けたりすることは難しいですが、やる気満々です。それぞれのやる気や、出来ることを見極め、手を添えながら出来ることが少しずつ増えるよう関わっています。やってみようという気持ちになった時が、上達のチャンスです。家庭でも、自分でやってみようという気持ちが見られたら、見守ってあげてください。遊びの場面では、少し月齢の高い子の遊びに興味を持ち、覗いてみたり、友達と遊んでいる物が楽しそうに見えて取ってしまったりと様々な姿が見られます。少しずつ友達にも興味が出てくる時期です。友だちと一緒に楽しいと感じられるよう、保育者も一緒に楽しみながら過ごすことを大切にしています。

すみれぐみ 2才児



寒い中でも子どもたちは、元気に体を動かして遊んでいます。最近では、上着を着てくる子どもも多くなり、上着の着脱を頑張っています。しかし、着たが分からなかったり、ファスナーやボタンの留め方が分からず、困っている子ども達が多く見られます。一緒にいながら方法を知らせると、「自分でやってみよう」という思いが芽生え、自分で取り組む姿も少しずつ見られるようになりました。時間はかかりますが、最後まで諦めずに頑張っています。頑張った分、自分で出来たときの喜びは大きく、表情も輝いています。その経験が、「難しいけど頑張ってみよう！」という意欲に繋がります。子ども達が自分で頑張っているときは、温かく見守ってください。出来た、出来なかった、結果に関わらず、頑張っている姿をたくさん褒めてもらうことで、自信につながります。

ちゅうりっぷぐみ 3才児



「みんなで活動すると面白い」という思いは、近い将来に芽生える「協力する力」の土台となります。この事を踏まえ、保育活動を次のステップへと移行し、「ルールのある遊び」を中心に進めています。面白さを共有すると同時に、こども同士のやり取りから生まれる生きた学びを重ねていく事がねらいです。チーム対抗戦では勝つと飛び跳ねて喜び、負けるとしょんぼりした雰囲気が漂うほど白熱しています。なかには、負けて「悔しいー」という感情が芽生え、大粒の涙が溢れる子どももいます。「どうしたの？」と涙の理由を共有すると、チームの枠を超えて励ましの言葉をかけるという姿が見られました。友達の気持ちに気付き、寄り添いたいという温かな思いが、こども達の心を満たした様子が伝わってきました。今後も、このような様々な感情の交流を深めていきます。

ばらぐみ 4才児



夫々が、箱や芯、段ボールなど様々な廃材を使って自由工作をしました。作っている際、一人の子が「Bくん、ポンド付けすぎよ」と言葉で伝えていました。Bくんが首を傾げると、その子は「僕はこのくらいにしたよ」と自分がつけた量を見せています。Bくんは、「このくらい?」、「くつつかな?」、「ついた!」と量を調節し、適量を知る事が出来ました。4才児期は、様々な活動を通して、仲間との繋がりを深めていく中で相手の立場に立って考え、教えることができるようになっていきます。自分の行動が役に立ったという充実感が自己信頼感へと繋がり、夫々が力を発揮しながら過ごしていけるよう関わっていきます。今月は、合奏や劇遊びの活動を計画しています。仲間と表現する楽しさを感じる事を目標に取り組んでいきます。

ひまわりぐみ 5才児



運動会への取り組みを通して友だちとの関係が深まった子どもたちは、自由遊びの時間に友だちと好きな遊びを楽しんでいます。畑の中で虫や草花を探したり、ルールのある遊びをしたり、砂場で砂を掘り起こしたりする姿がよく見られます。鬼ごっこをしていた時のことです。「仲間に入れてもらえない」と泣きながら言いにくる子がいました。その姿が気になった3人の友だちが近づいてきて「嫌なことしないなら遊んでくれると思うよ」、「嫌なことしてないのに何で入れてくれないのかな?」と話していたので一緒に話をしよう頼んだところ、その3人が泣いていた子を連れて行って話をしてくれ、一緒に遊び始めました。仲のいい友だちの味方をするだけでなく、悲しい思いをしている子の気持ちに寄り添い、解決しようとする姿に成長を感じる出来事でした。